

## ⑫ 公開特許公報(A) 平3-63717

⑤ Int. Cl.<sup>5</sup>

識別記号

庁内整理番号

④ 公開 平成3年(1991)3月19日

G 06 F 3/02

3 7 0 A

7530-5B

3/14

3 6 0 G

7530-5B

3 7 0 A

8323-5B

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全4頁)

⑭ 発明の名称 アイコンの複数選択による一括処理方式

⑰ 特 願 平1-199025

⑱ 出 願 平1(1989)7月31日

⑲ 発 明 者 簡 井 健 作 東京都港区芝5丁目33番1号 日本電気株式会社内

⑳ 発 明 者 出 羽 雄 二 東京都港区芝5丁目33番1号 日本電気株式会社内

㉑ 出 願 人 日本電気株式会社 東京都港区芝5丁目7番1号

㉒ 代 理 人 弁理士 井ノ口 壽

## 明 細 書

## 1. 発明の名称

アイコンの複数選択による一括処理方式

## 2. 特許請求の範囲

処理対象である任意のオブジェクトに対応するアイコンを複数選択するためのアイコン選択手段と、前記選択されたアイコンに対応するすべてのオブジェクトの間で共通に定義される処理の中から一つを決定するための処理選択手段と、前記決定された処理を前記選択されたアイコンに対応するすべてのオブジェクトに対して反復するための反復処理手段とを具備して構成したことを特徴とするアイコンの複数選択による一括処理方式。

## 8. 発明の詳細な説明

(産業上の利用分野)

本発明はコンピュータと利用者との間の対話方式に関し、特に、その利用者からコンピュータへの要求の伝達方式に関する。

(従来技術)

従来、コンピュータと利用者との間でオブジ

クト指向の対話を行う場合には、処理対象であるオブジェクトに対応する1個のアイコンに対し、実行可能な処理を一つ選択していた。また、利用者が複数のオブジェクトに対して同一の処理を要求する際にも、それぞれに対してアイコン選択、および処理選択の操作を繰返して行っていた。

(発明が解決しようとする課題)

上述した従来のコンピュータと利用者との間の対話方式で操作性を向上する必要がある場合には、単調な繰返し操作を一括操作に置換えることにより、利用者の操作負担の軽減を図る必要がある。上述した従来技術では、利用者からコンピュータへの処理要求において、各オブジェクトについて必ずアイコンの選択、および処理の選択の操作を行わなければならない、利用者の操作負担は大きいという欠点がある。

本発明の目的は、処理対象である任意のオブジェクトに対応するアイコンを複数選択するとともに、選択されたアイコンに対応するすべてのオブジェクトの間で共通に定義される処理の中から一

つを決定し、決定された処理を選択されたアイコンに対応するすべてのオブジェクトに対して反復することによつて上記欠点を除去し、操作負担を減ずることができるように構成したアイコンの複数選択による一括処理方式を提供することにある。

(課題を解決するための手段)

本発明によるアイコンの複数選択による一括処理方式は、アイコン選択手段と、処理選択手段と、反復処理手段とを具備して構成したものである。

アイコン選択手段は、処理対象である任意のオブジェクトに対応するアイコンを複数選択するためのものである。

処理選択手段は、選択されたアイコンに対応するすべてのオブジェクトの間で共通に定義される処理の中から一つを決定するためのものである。

反復処理手段は、上記決定された処理を上記選択されたアイコンに対応するすべてのオブジェクトに対して反復するためのものである。

(実施例)

次に、本発明に関して図面を参照して説明する。

以下に、第2図～第7図を参照して画面での操作例を説明する。

第2図において、アイコンをポインタ20で指示すると、これにより選択が行われ、選択が記憶されたフォルダアイコン51は反転表示される。引続き、第3図において、他のアイコンをポインタ20で指示すると、これにより複数選択が可能であり、選択が記憶された文書アイコン52は同様に反転表示される。これらは、本方式のアイコン選択手段によつて行われる。第4図において、メニュー30をポインタ20で指示すると、これにより選択を記憶したすべてのアイコン51、52に共通的に定義された処理が提示される。このとき、共通して選択可能なメニュー項目は、31で代表されるように実線文字で表わされ、そうでないメニュー項目は32で代表されるように破線文字で表わされる。第5図において、ポインタ20でメニュー30中のメニュー項目33を指示することにより、処理の選択が行われて選択が記憶される。これらは、本方式の処理選択手段

第1図は、本発明によるアイコンの複数選択による一括処理方式の一実施例を示すブロック図である。

第1図において、11はアイコン選択手段、12は処理選択手段、13は反復処理手段である。

第1図においてアイコン選択手段11は利用者が選択する画面上の複数のアイコンに対応する各オブジェクトの情報を取得して記憶する。また、当該情報は処理選択手段12に伝えられ、それらオブジェクトで共通に定義されている実行可能処理がメニューとして画面上に表示される。処理選択手段12は利用者によってその一つを選択させ、選択された処理の情報を取得して記憶する。反復処理手段13は、処理選択手段12で記憶した実行処理を行うモジュールに対し、アイコン選択手段11で記憶したオブジェクトの情報を1件づつ伝達し、オブジェクトの情報がなくなるまで上記動作を繰返す。これにより、本方式は構成される。

第2図～第7図は、それぞれ第1図に示すアイコンによる操作例を示す説明図である。

12によつて行われる。第6図においては、処理選択手段により記憶されている複写という処理がフォルダアイコン51に適用された結果、同様のフォルダアイコン53が画面上に生成されている。引続き、第7図においては、文書アイコン52にも複写処理が適用され、同様の文書アイコン54が画面上に生成されている。これにより、第6図および第7図の処理が実行されている間は、利用者は何等操作をする必要がなくなつたわけである。

(発明の効果)

以上説明したように本発明は、処理対象である任意のオブジェクトに対応するアイコンを複数選択するとともに、選択されたアイコンに対応するすべてのオブジェクトの間で共通に定義される処理の中から一つを決定し、決定された処理を選択されたアイコンに対応するすべてのオブジェクトに対して反復することによつて、利用者からコンピュータへの処理要求において、特に複数処理対象に対して同一処理を要求する際に、単調な繰返し操作が一括操作に置き換えられ、利用者の操作

負担が軽減できるという効果がある。

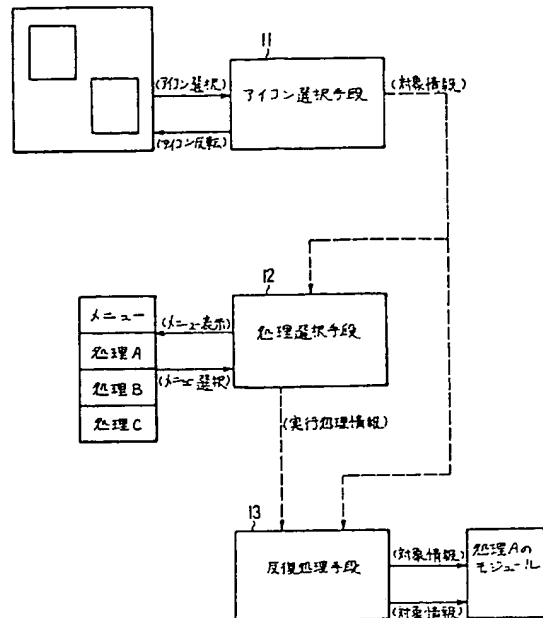
## 4. 図面の簡単な説明

第1図は、本発明によるアイコンの複数選択による一括処理方式の一実施例を示すブロック図である。

第2図～第7図は、それぞれ第1図に示すアイコンによる操作例を示す説明図である。

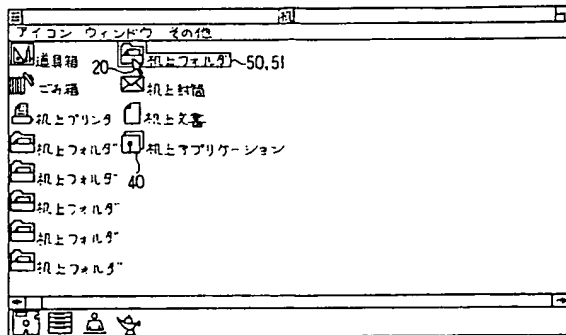
- 11・・・アイコン選択手段
- 12・・・処理選択手段
- 13・・・反復処理手段
- 20・・・ポインタ
- 30・・・メニュー
- 31～33・・・項目
- 40、50～54・・・アイコン

★ 1 図

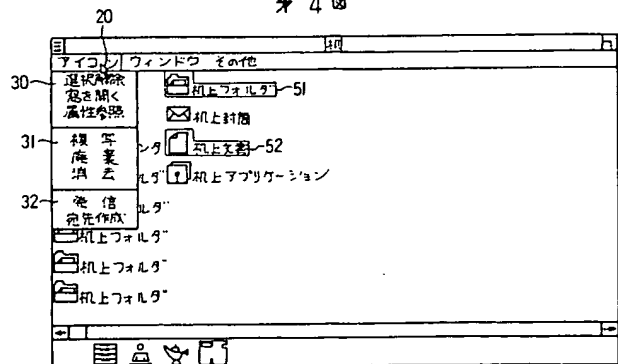


特許出願人 日本電気株式会社  
代理人 弁理士 井ノ口 勝

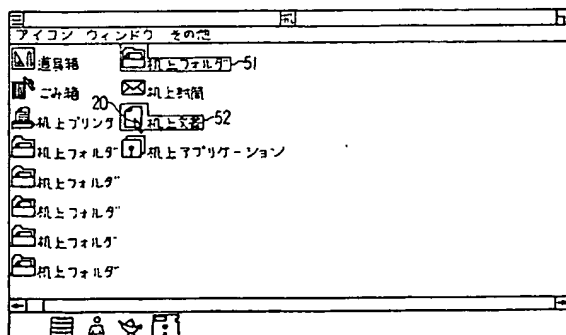
★ 2 図



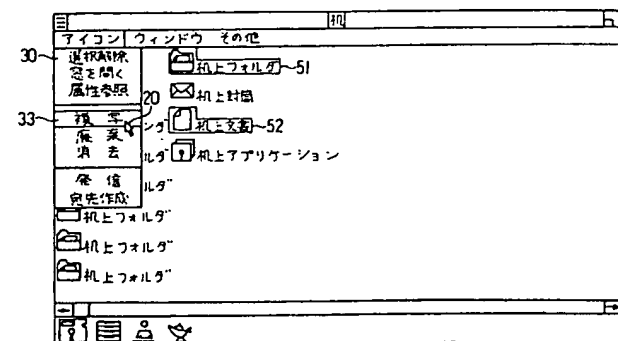
★ 4 図



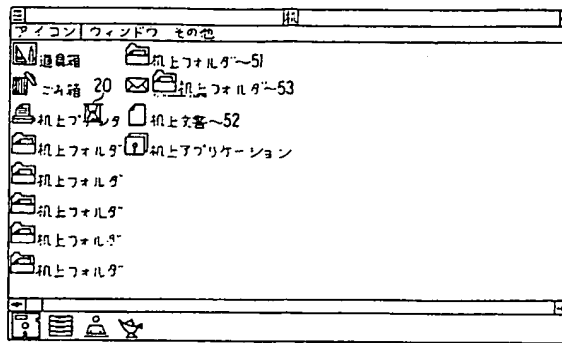
★ 3 図



★ 5 図



オ 6 図



オ 7 図

